

◎外交関係に關するウィーン条約

(略称) 外交関係ウィーン条約

昭和三十六年 四月 十八日	ウィーンで作成
昭和三十九年 四月 二十四日	効力發生
昭和三十七年 三月 六日	署名の内閣決定
昭和三十七年 三月 二十八日	ニュー・ヨークの国際連合 本部で署名
昭和三十九年 五月 八日	国会承認
昭和三十九年 五月 二十九日	批准の内閣決定
昭和三十九年 六月 八日	批准書寄託
昭和三十九年 六月 二十六日	公布及び効力發生の告示 (昭和三十九年条約第十四号)
昭和三十九年 七月 八日	効力發生

目次

前文	……………	三三五
第一条 定義	……………	三三五
第二条 外交関係の開設及び使節団の設置	……………	三三六
第三条 使節団の任務	……………	三三六
第四条 アクレマン	……………	三三七
第五条 同一使節団長又は外交職員の上の二以上の国への同時派遣	……………	三三七
第六条 二以上の国の同一使節団長の派遣	……………	三三八
第七条 使節団職員の任命	……………	三三八
第八条 外交職員の国籍	……………	三三八

ページ

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

第九 条	ベルソナ・ノン・グラータ	三三九
第十 条	着任、離任等の通告	三三九
第十一 条	使節団職員の数及び特定職種の職員を受け入れ	三四〇
第十二 条	使節団設置場所以外における事務所の設置	三四一
第十三 条	信任状の提出及び使節団の長の職務開始時期	三四一
第十四 条	使節団の長の階級及びその階級による差別の禁止	三四一
第十五 条	階級に関する合意	三四二
第十六 条	使節団の長の席次	三四二
第十七 条	外交職員の席次	三四二
第十八 条	使節団の長の接受に関する手續	三四二
第十九 条	臨時代理大使及び臨時代理公使	三四三
第二十 条	国旗及び国章掲揚の権利	三四三
第二十一 条	公館の取得又は使節団構成員の施設入手に関する便宜供与	三四三
第二十二 条	公館の不可侵	三四四
第二十三 条	公館に対する課税免除	三四四
第二十四 条	公文書の不可侵	三四五
第二十五 条	任務遂行のための便宜供与	三四五
第二十六 条	移動及び旅行の自由	三四五
第二十七 条	通信の自由	三四五
第二十八 条	手数料に対する課税の免除	三四六
第二十九 条	身体の不可侵	三四七
第三十 条	住居、書類、通信及び財産の不可侵	三四七
第三十一 条	裁判権の免除	三四七
第三十二 条	派遣国による裁判権免除の放棄	三四八
第三十三 条	社会保障規程の免除	三四九

第三十四条	租税の免除	三五〇
第三十五条	役務及び軍事上の義務の免除	三五〇
第三十六条	関税と検査の免除	三五一
第三十七条	外交官の家族、事務技術職員及びその家族、役務職員等の特権免除	三五一
第三十八条	接受国の国民又は通常居住者たる外交官及びその他職員の特権免除の享有	三五二
第三十九条	特権免除を享有する期間	三五三
第四十条	第三国の義務	三五四
第四十一条	接受国の法令の尊重	三五五
第四十二条	外交官の営利活動の禁止	三五六
第四十三条	外交官の任務の終る時期	三五六
第四十四条	非常事態における退去の便宜供与	三五六
第四十五条	外交関係断絶又は使節団召還の場合における接受国又は第二国による派遣国の利益保護	三五七
第四十六条	派遣国による第三国の利益保護	三五七
第四十七条	この条約の規定の無差別の適用	三五七
第四十八条	署名	三五八
第四十九条	批准	三五八
第五十条	加入	三五八
第五十一条	効力発生	三五九
第五十二条	国連事務総長による通報	三五九
第五十三条	原本及び認証謄本	三五九
末	文	三六〇

外交関係に関するウィーン条約

前文

この条約の当事国は、すべての国の国民が古くから外交官の地位を承認してきてきたことを想起し、

国の主権平等、国際の平和及び安全の維持並びに諸国間の友好関係の促進に関する国際連合憲章の目的及び原則に留意し、

外交関係並びに外交上の特権及び免除に関する国際条約が、国家組織及び社会制度の相違にかかわらず、諸国間の友好関係の発展に貢献するであろうことを信じ、

このような特権及び免除の目的が、個人に利益を与えることにあるのではなく、国を代表する外交使節団の任務の能率的な遂行を確保することにあることを認め、

この条約の規定により明示的に規制されていない問題については、引き続き国際慣習法の諸規則によるべきことを確認して、

次のとおり協定した。

第一条

定義

(a) この条約の適用上、「使節団の長」とは、その資格において行動する任務を派遣国により課せられた者をいう。

(b) 「使節団の構成員」とは、使節団の長及び使節団の職

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

VIENNA CONVENTION ON DIPLOMATIC RELATIONS

The States Parties to the present Convention,

Recalling that peoples of all nations from ancient times have recognised the status of diplomatic agents,

Having in mind the purposes and principles of the Charter of the United Nations concerning the sovereign equality of States, the maintenance of international peace and security, and the promotion of friendly relations among nations,

Believing that an international convention on diplomatic intercourse, privileges and immunities would contribute to the development of friendly relations among nations, irrespective of their differing constitutional and social systems,

Realising that the purpose of such privileges and immunities is not to benefit individuals but to ensure the efficient performance of the functions of diplomatic missions as representing States,

Affirming that the rules of customary international law should continue to govern questions not expressly regulated by the provisions of the present Convention,

Have agreed as follows:

Article 1

For the purpose of the present Convention, the following expressions shall have the meanings hereunder assigned to them:

(a) the "head of the mission" is the person charged by the sending State with the duty of acting in that capacity;

(b) the "members of the mission" are the head of the mission and the

員をいう。

- (c) 「使節団の職員」とは、使節団の外交職員、事務及び技術職員並びに役務職員をいう。
- (d) 「外交職員」とは、使節団の職員で外交官の身分を有するものをいう。
- (e) 「外交官」とは、使節団の長又は使節団の外交職員をいう。
- (f) 「事務及び技術職員」とは、使節団の職員で使節団の事務的業務又は技術的業務のために雇用されているものをいう。
- (g) 「役務職員」とは、使節団の職員で使節団の役務に従事するものをいう。
- (h) 「個人的使用人」とは、使節団の構成員の家事に従事する者で派遣国が雇用する者でないものをいう。
- (i) 「使節団の公館」とは、所有者のいかに問わず、使節団のために使用されている建物又はその一部及びこれに附属する土地(使節団の長の住居であるこれらのものを含む)をいう。

第二条

諸国間の外交関係の開設及び常駐の使節団の設置は、相互の同意によつて行なう。

第三条

外交関係
の開設及
び使節団
の設置

- (c) members of the staff of the mission;
- (d) the "members of the staff of the mission" are the members of the diplomatic staff, of the administrative and technical staff and of the service staff of the mission;
- (e) the "members of the diplomatic staff" are the members of the staff of the mission having diplomatic rank;
- (f) a "diplomatic agent" is the head of the mission or a member of the diplomatic staff of the mission;
- (g) the "members of the administrative and technical staff" are the members of the staff of the mission employed in the administrative and technical service of the mission;
- (h) the "members of the service staff" are the members of the staff of the mission in the domestic service of the mission;
- (i) a "private servant" is a person who is in the domestic service of a member of the mission and who is not an employee of the sending State;
- (j) the "premises of the mission" are the buildings or parts of buildings and the land ancillary thereto, irrespective of ownership, used for the purposes of the mission including the residence of the head of the mission.

Article 2

The establishment of diplomatic relations between States, and of permanent diplomatic missions, takes place by mutual consent.

Article 3

- 1 使節団の任務は、特に、次のことから成る。
 - (a) 接受国において派遣国を代表すること。
 - (b) 接受国において、国際法が認める範囲内で派遣国及びその国民の利益を保護すること。
 - (c) 接受国の政府と交渉すること。
 - (d) 接受国における諸事情をすべての適法な手段によつて確認し、かつ、これらについて派遣国の政府に報告すること。
 - (e) 派遣国と接受国との間の友好関係を促進し、かつ、両国の経済上、文化上及び科学上の関係を發展させること。
- 2 この条約のいかなる規定も、使節団による領事任務の遂行を妨げるものと解してはならない。

第四条

- 1 派遣国は、自国が使節団の長として接受国に派遣しようとする者について接受国のアグレマンが与えられていることを確認しなければならない。
- 2 接受国は、アグレマンの拒否について、派遣国に対し、その理由を示す義務を負わない。

第五条

- 1 派遣国は、関係接受国に対し適当な通告を行なつた後、同一の使節団の長又は外交職員を同時に二以上の国に派

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

1. The functions of a diplomatic mission consist inter alia in:
 - (a) representing the sending State in the receiving State;
 - (b) protecting in the receiving State the interests of the sending State and of its nationals, within the limits permitted by International Law;
 - (c) negotiating with the Government of the receiving State;
 - (d) ascertaining by all lawful means conditions and developments in the receiving State, and reporting thereon to the Government of the sending State;
 - (e) promoting friendly relations between the sending State and the receiving State, and developing their economic, cultural and scientific relations.
2. Nothing in the present Convention shall be construed as preventing the performance of consular functions by a diplomatic mission.

Article 4

1. The sending State must make certain that the agreement of the receiving State has been given for the person it proposes to accredit as head of the mission to that State.
2. The receiving State is not obliged to give reasons to the sending State for a refusal of agreement.

Article 5

1. The sending State may, after it has given due notification to the receiving States concerned, accredit a head of mission or assign any

外交職員
の二以上
の国への
同時派遣

遣することができる。ただし、いずれかの関係接受国が明示的に異議を申し入れた場合は、この限りでない。

2 派遣国は、同一の使節団の長を他の一又は二以上の国に派遣している場合には、その使節団の長が常駐しない各国に臨時代理大使又は臨時代理公使を首席の職員とする使節団を設置することができる。

3 使節団の長又は使節団の外交職員は、国際機関における自国の代表として行動することができる。

第六条

二以上の
国の同一
の使節団
の派遣

二以上の国は、同一の者を同時にそれぞれの国の使節団の長として他の一国に派遣することができる。ただし、接受国が異議を申し入れた場合は、この限りでない。

第七条

使節団職
員の任命

第五条、第八条、第九条及び第十一条の規定に従うことを条件として、派遣国は、使節団の職員を自由に任命することができる。使節団付きの陸軍駐在官、海軍駐在官又は空軍駐在官の任命については、接受国は、承認のため、あらかじめその氏名を申し出ることを要求することができる。

第八条

外交職員
の国籍

1 使節団の外交職員は、原則として、派遣国の国籍を有する者でなければならない。

member of the diplomatic staff, as the case may be, to more than one State, unless there is express objection by any of the receiving States.

2. If the sending State accredits a head of mission to one or more other States it may establish a diplomatic mission headed by a *chef de délégué ad interim* in each State where the head of mission has not his permanent seat.

3. A head of mission or any member of the diplomatic staff of the mission may act as representative of the sending State to any international organization.

Article 6

Two or more States may accredit the same person as head of mission to another State, unless objection is offered by the receiving State.

Article 7

Subject to the provisions of Articles 5, 9, 9 and 11, the sending State may freely appoint the members of the staff of the mission. In the case of military, naval or air attachés, the receiving State may require their names to be submitted beforehand, for its approval.

Article 8

1. Members of the diplomatic staff of the mission should in principle be of the nationality of the sending State.

- 2 使節団の外交監督官は、接受国の国籍を有する者の中から任命してはならない。ただし、接受国が同意した場合、この限りでない。接受国は、いつでも、この同意を撤回することができる。
- 3 接受国は、派遣国の国民でない第三国の国民についても、同様の権利を留保することができる。

第九條

- 1 接受国は、いつでも、理由を示さないうで、派遣国に對し、使節団の長若しくは使節団の外交職員である者がベルソナ・ノン・グラータであること又は使節団のその他の職員である者が受け入れ難い者であることを通告することができ、その通告を受けた場合には、派遣国は、狀況に應じ、その者を召還し、又は使節団におけるその者の任務を終了させなければならない。接受国は、いずれかの者がその領域に到着する前においても、その者がベルソナ・ノン・グラータであること又は受け入れ難い者であることを明かにすることができる。
- 2 派遣国が1に規定する者に関するその義務を履行することを拒否した場合又は相当な期間内にこれを履行しなかつた場合には、接受国は、その者を使節団の構成員と認めることを拒否することができる。

第十條

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

2. Members of the diplomatic staff of the mission may not be appointed from among persons having the nationality of the receiving State, except with the consent of that State which may be withdrawn at any time.

3. The receiving State may reserve the same right with regard to nationals of a third State who are not also nationals of the sending State.

Article 9

1. The receiving State may at any time and without having to explain its decision, notify the sending State that the head of the mission or any member of the diplomatic staff of the mission is persona non grata or that any other member of the staff of the mission is not acceptable. In any such case, the sending State shall, as appropriate, order recall the person concerned or terminate his functions with the mission. A person may be declared non grata or not acceptable before arriving in the territory of the receiving State.

2. If the sending State refuses or fails within a reasonable period to carry out its obligations under paragraph 1 of this Article, the receiving State may refuse to recognize the person concerned as a member of the mission.

Article 10

- 1 接受国の外務省（合意により指定した他の省を含む。以下同じ。）は、次の事項について通告を受けるものとする。
 - (a) 使節団の構成員の任命、到着及び最終的出発又は使節団における任務の終了
 - (b) 使節団の構成員の家族である者の到着及び最終的出発並びに、状況に応じ、いずれかの者が使節団の構成員の家族となる事実又は家族でなくなる事実
 - (c) (a)に掲げる者が雇用している個人的使用人の到着及び最終的出発並びに、状況に応じ、そのような雇用が終了する事実
 - (d) 接受国内に居住する者を使節団の構成員として又は特権及び免除を受ける権利を有する個人的使用人として雇用すること及びこれを解雇すること。
- 2 1に規定する到着及び最終的出発の通告は、可能な場合には、事前にも行なわなければならない。

第十一条

- 1 使節団の職員の数に関して特別の合意がない場合には、接受国は、使節団の職員の数を受け国が自国内の諸事情及び当該使節団の必要を考慮して合理的かつ正常と認められる範囲内のものとするを要求することができる。
- 2 接受国は、また、同様の制限の下に、かつ、無差別の原則の下に、特定の職種を職員を受け入れることを拒否

使節団職
員の数及
び特定の
種々の職
種の職員
の受け入
れ

1. The Ministry for Foreign Affairs of the receiving State, or such other ministry as may be agreed, shall be notified of:
 - (a) the appointment of members of the mission, their arrival and their final departure or the termination of their functions with the mission;
 - (b) the arrival and final departure of a person belonging to the family of a member of the mission and, where appropriate, the fact that a person becomes or ceases to be a member of the family of a member of the mission;
 - (c) the arrival and final departure of private servants in the employ of persons referred to in sub-paragraph (b) of this paragraph and, where appropriate, the fact that they are leaving the employ of such persons;
 - (d) the engagement and discharge of persons resident in the receiving State as members of the mission or private servants entitled to privileges and immunities.
 2. Where possible, prior notification of arrival and final departure shall also be given.
- Article 11
1. In the absence of specific agreement as to the size of the mission, the receiving State may require that the size of a mission be kept within limits considered by it to be reasonable and normal, having regard to circumstances and conditions in the receiving State and to the needs of the particular mission.
 2. The receiving State may, equally, within similar bounds and on a non-discriminatory basis, refuse to accept officials of a particular category.

使節團の設置場所における事務所の設置

信任状の提出及び使節團の職務開始時期

使節團の階級及びその階級による差別的禁止

することができる。

第十二条

派遣国は、接受国による事前の明示の同意を得ないで、使節團の設置の場所以外の場所に、使節團の一部を構成する事務所を設置してはならない。

第十三条

1 使節團の長は、接受国において一律に適用されるべき一般的な習律に従い、自己の信任状を提出した時又は自己の到着を接受国の外務省に通告し、かつ、自己の信任状の真正な写しを外務省に提出した時において接受国における自己の任務を開始したものとみなされる。

2 信任状又はその真正な写しを提出する順序は、使節團の長の到着の日時によつて決定する。

第十四条

1 使節團の長は、次の三の階級に分かたれる。

- (a) 国の元首に対して派遣された大使又はローマ法王の大使及びこれらと同等の地位を有する他の使節團の長の国の元首に対して派遣された公使及びローマ法王の公使
- (c) 外務大臣に対して派遣された代理公使

2 席次及び儀礼に関する場合を除くほか、階級によつて

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

Article 12

The sending State may not, without the prior express consent of the receiving State, establish offices forming part of the mission in localities other than those in which the mission itself is established.

Article 13

1. The head of the mission is considered as having taken up his functions in the receiving State either when he has presented his credentials or when he has notified his arrival and a true copy of his credentials has been presented to the Ministry for Foreign Affairs of the receiving State, or such other ministry as may be agreed, in accordance with the practice prevailing in the receiving State which shall be applied in a uniform manner.

2. The order of presentation of credentials of a true copy thereof will be determined by the date and time of the arrival of the head of the mission.

Article 14

- 1. Heads of mission are divided into three classes, namely:
 - (a) that of ambassadors or nuncios accredited to Heads of State, and other heads of mission of equivalent rank;
 - (b) that of envoys, ministers and internuncios accredited to Heads of State;
 - (c) that of other heads of mission accredited to Ministers for Foreign Affairs.

2. Except as concerns precedence and etiquette, there shall be no differentiation between heads of mission by reason of their class.

使節団の長を差別してはならない。

第十五条

階級に關する合意
使節団の長に与える階級は、關係国の間で合意することによる。

第十六条

使節団の
長の席次

- 1 使節団の長は、それぞれの階級においては、第十三条の規定による任務開始の日時の順序に従つて席次を占めるものとする。
- 2 使節団の長の信任状の変更で階級の変更を伴わないものは、その使節団の長の席次に影響を及ぼさないものとする。
- 3 この条の規定は、ローマ法王の代表者の席次に関する習律で接受国が容認するものに影響を及ぼすものではない。

第十七条

外交職員
の席次

使節団の外交職員の前席は、使節団の長が接受国の外務省に通告するものとする。

第十八条

使節団の
長の接受
に關する
手続

使節団の長の接受に關しよるべき手続は、当該接受国において、それぞれの階級につき同一でなければならぬ。

The class to which the heads of their missions are to be assigned shall be agreed between States.

Article 15

1. Heads of mission shall take precedence in their respective classes in the order of the date and time of taking up their functions in accordance with Article 13.

2. Alterations in the credentials of a head of mission not involving any change of class shall not affect his precedence.

3. This article is without prejudice to any practice accepted by the receiving State regarding the precedence of the representative of the Holy See.

Article 17

The precedence of the members of the diplomatic staff of the mission shall be notified by the head of the mission to the Ministry for Foreign Affairs or such other ministry as may be agreed.

Article 18

The procedure to be observed in each State for the reception of heads of mission shall be uniform in respect of each class.

臨時代理
大使及び
臨時代理
公使

国旗及び
国章掲揚
の権利

公館の取
得又は使
節団構成
員の施設
入手に便
する便宜
供与

第十九条

1 使節団の長が欠けた場合又は使節団の長がその任務を遂行することができない場合には、臨時代理大使又は臨時代理公使が暫定的に使節団の長として行動するものとする。その臨時代理大使又は臨時代理公使の氏名は、使節団の長又は、使節団の長がすることが不可能な場合には、派遣国の外務省が接受国の外務省に通告するものとする。

2 派遣国は、その使節団の外交職員が接受国にいない場合には、接受国の同意を得て、事務及び技術職員を使節団の日常の管理的事務の担当者に指定することができ。

第二十条

使節団及び使節団の長は、使節団の公館（使節団の長の住居を含む。）及び使節団の長の輸送手段に派遣国の国旗及び国章を掲げる権利を有する。

第二十一条

1 接受国は、派遣国が自国の使節団のために必要な公館を接受国の法令に従つて接受国の領域内で取得することを容易にし、又は派遣国が取得以外の方法で施設を入手することを助けなければならない。

2 接受国は、また、必要な場合には、使節団が使節団の構成員のための適当な施設を入手することを助けなければ

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

Article 19

1. If the post of head of the mission is vacant, or if the head of the mission is unable to perform his functions, a chargé d'affaires ad interim shall not provisionally as head of the mission. The name of the chargé d'affaires ad interim shall be notified, either by the head of the mission or, in case he is unable to do so, by the Ministry for Foreign Affairs of the sending State to the Ministry for Foreign Affairs of the receiving State or such other ministry as may be agreed.

2. In cases where no member of the diplomatic staff of the mission is present in the receiving State, a member of the administrative and technical staff may, with the consent of the receiving State, be designated by the sending State to be in charge of the current administrative affairs of the mission.

Article 20

The mission and its head shall have the right to use the flag and emblem of the sending State on the premises of the mission, including the residence of the head of the mission, and on his means of transport.

Article 21

1. The receiving State shall either facilitate the acquisition on its territory, in accordance with its laws, by the sending State of premises necessary for its mission or assist the latter in obtaining accommodation in some other way.

2. It shall also, where necessary, assist missions in obtaining suitable accommodation for their members.

ばならない。

第二十二條

公館の不
侵

1 使節団の公館は、不可侵とする。接受国の官吏は、使節団の長が同意した場合を除くほか、公館に立ち入ることができない。

2 接受国は、侵入又は損壞に対し使節団の公館を保護するため及び公館の安寧の妨害又は公館の威厳の侵害を防止するため適当なすべての措置を執る特別の責務を有する。

3 使節団の公館、公館内にある用具類その他の財産及び使節団の輸送手段は、搜索、徴発、差押え又は強制執行を免除される。

第二十三條

公館に対
する課税
免除

1 派遣国及び使節団の長は、使節団の公館（所有しているものであると賃借しているものとを問わない。）について、国又は地方公共団体のすべての賦課金及び租税を免除される。ただし、これらの賦課金又は租税であつて、提供された特定の役務に対する給付としての性質を有するものは、この限りでない。

2 この条に規定する賦課金又は租税の免除は、派遣国又は使節団の長と契約した者が接受国の法律に従つて支払うべき賦課金又は租税については適用しない。

Article 22

1. The premises of the mission shall be inviolable. The agents of the receiving State may not enter them, except with the consent of the head of the mission.

2. The receiving State is under a special duty to take all appropriate steps to protect the premises of the mission against any intrusion or damage and to prevent any disturbance of the peace of the mission or impairment of its dignity.

3. The premises of the mission, their furnishings and other property thereon and the means of transport of the mission shall be immune from search, requisition, attachment or execution.

Article 23

1. The sending State and the head of the mission shall be exempt from all national, regional or municipal dues and taxes in respect of the premises of the mission, whether owned or leased, other than such as represent payment for specific services rendered.

2. The exemption from taxation referred to in this Article shall not apply to such dues and taxes payable under the law of the receiving State by persons contracting with the sending State or the head of the mission.

公文書の
不可侵の
ための

使節団の公文書及び書類は、いずれの時及びいずれの場
所においても不可侵とする。

第二十四条

第二十五条

任務遂行
のための
便宜供与

接受国は、使節団に対し、その任務の遂行のため十分な
便宜を与えなければならない。

第二十六条

移動及び
旅行の自
由

接受国は、国の安全上の理由により立入りが禁止され又
は規制されている地域に関する法令に従うことを条件とし
て、使節団のすべての構成員に対し、自国の領域内におけ
る移動の自由及び旅行の自由を確保しなければならない。

第二十七条

通信の自
由

1 接受国は、すべての公の目的のためにする使節団の自
由な通信を許し、かつ、これを保護しなければならない。
使節団は、自国の政府並びに、いずれの場所にあるかを
問わず、自国の他の使節団及び領事館と通信するにあた
り、外交伝書使及び暗号又は符号による通信文を含むす
べての適当な手段を用いることができる。ただし、使節
団が、無線送信機を設置し、かつ、使用するには、接受
国の同意を得なければならない。

2 使節団の公用通信は、不可侵とする。公用通信とは、

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

Article 24

The archives and documents of the mission shall be inviolable at
any time and wherever they may be.

Article 25

The receiving State shall accord full facilities for the
performance of the functions of the mission.

Article 26

Subject to its laws and regulations concerning cross entry into
which is prohibited or regulated for reasons of national security, the
receiving State shall ensure to all members of the mission freedom of
movement and travel in its territory.

Article 27

1. The receiving State shall permit and protect free communication
on the part of the mission for all official purposes. In communicating
with the Government and the other missions and consulates of the sending
State, wherever situated, the mission may employ all appropriate means,
including diplomatic couriers and messages in code or cipher. However,
the mission may install and use a wireless transmitter only with the
consent of the receiving State.

2. The official correspondence of the mission shall be inviolable.
Official correspondence means all correspondence relating to the mission
and its functions.

3. The diplomatic bag shall not be opened or detained.

4. The packages constituting the diplomatic bag must bear visible
external marks of their character and may contain only diplomatic

使節団及びその任務に関するすべての通信をいう。

3 外交封印袋は、開き又は留置することができない。

4 外交封印袋である包みには、外交封印袋であることを外部から識別しうる記号を附さなければならず、また、外交上の書類又は公の使用のための物品のみを入れることができる。

5 外交伝書使は、自己の身分及び外交封印袋である包みの数を示す公文書が交付されていることを要し、その任務の遂行について接受国により保護されるものとする。

その外交伝書使は、身体の不可侵を享有し、いかなる方法によつてもこれを抑留し又は拘禁することができない。

6 派遣国又はその使節団は、臨時の外交伝書使を指名することができる。その場合には、5の規定の適用があるものとする。ただし、5に規定する免除は、その外交伝書使が自己の管理の下にある外交封印袋を受取人に交付した時に、適用されなくなるものとする。

7 外交封印袋は、公認の入国空港に着陸することになっている商業航空機の機長にその輸送を委託することができる。その機長は、外交封印袋である包みの数を示す公文書を交付されるが、外交伝書使とはみなされない。使節団は、その機長から直接にかつ自由に外交封印袋を受領するため、使節団の構成員を派遣することができる。

documents or articles intended for official use.

5. The diplomatic courier, who shall be provided with an official document indicating his status and the number of packages constituting the diplomatic bag, shall be protected by the receiving State in the performance of his functions. He shall enjoy personal inviolability and shall not be liable to any form of arrest or detention.

6. The sending State or the mission may designate diplomatic couriers ad hoc. In such cases the provisions of paragraph 5 of this Article shall also apply, except that the immunities therein mentioned shall cease to apply when such a courier has delivered to the consignee the diplomatic bag in his charge.

7. A diplomatic bag may be entrusted to the captain of a commercial aircraft scheduled to land at an authorized port of entry. He shall be provided with an official document indicating the number of packages constituting the bag but he shall not be considered to be a diplomatic courier. The mission may send one of its members to take possession of the diplomatic bag directly and freely from the captain of the aircraft.

手数料に
対する課
税の免除

身体の不
可侵

住居、通
信、書
類及び財
産の不可
侵

裁判権の
免除

使節団がその公の任務の遂行にあつて課する手数料及び料金は、すべての賦課金及び租税を免除される。

第二十九条

外交官の身体は、不可侵とする。外交官は、いかなる方法によつても抑留し又は拘禁することができない。接受国は、相応な敬意をもつて外交官を待遇し、かつ、外交官の身体、自由又は尊厳に対するいかなる侵害をも防止するためすべての適当な措置を執らなければならない。

第三十条

1 外交官の個人的住居は、使節団の公館と同様の不可侵及び保護を享有する。
2 外交官の書類、通信及び、第三十一条3の規定による場合を除くほか、その財産も、同様に、不可侵を享有する。

第三十一条

1 外交官は、接受国の刑事裁判権からの免除を享有する。外交官は、また、次の訴訟の場合を除くほか、民事裁判権及び行政裁判権からの免除を享有する。
(a) 接受国の領域内にある個人の不動産に関する訴訟（その外交官が使節団の目的のため派遣国に代わつて保有する不動産に関する訴訟を含まない。）

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

The fees and charges levied by the mission in the course of its official duties shall be exempt from all dues and taxes.

Article 29

The person of a diplomatic agent shall be inviolable. He shall not be liable to any form of arrest or detention. The receiving State shall treat him with due respect and shall take all appropriate steps to prevent any attack on his person, freedom or dignity.

Article 30

1. The private residence of a diplomatic agent shall enjoy the same inviolability and protection as the premises of the mission.
2. His papers, correspondence and, except as provided in paragraph 3 of Article 31, his property, shall likewise enjoy inviolability.

Article 31

1. A diplomatic agent shall enjoy immunity from the criminal jurisdiction of the receiving State. He shall also enjoy immunity from its civil and administrative jurisdiction, except in the case of:
(a) a real action relating to private immovable property situated in the territory of the receiving State, unless he holds it on behalf of the sending State for the purpose of the mission;
(b) an action relating to succession in which the diplomatic agent is involved as executor, administrator, heir or legatee as a private person and not on behalf of the sending State;

- (b) 外交官が、派遣国の代表者としてではなく個人として、遺言執行者、遺産管理人、相続人又は受遺者として関係している相続に関する訴訟
- (c) 外交官が接受国において自己の公の任務の範囲外で行なう職業活動に関する訴訟
- 2 外交官は、証人として証言を行なう義務を負わない。
- 3 外交官に対する強制執行の措置は、外交官の身体又は住居の不可侵を害さないことを条件として、1 (a)、(b)又は(c)に規定する訴訟の場合にのみ執ることが出来る。
- 4 外交官が享有する接受国の裁判権からの免除は、その外交官を派遣国の裁判権から免れさせるものではない。

第三十二条

- 1 派遣国は、外交官及び第三十七条の規定に基づいて免除を享有する者に対する裁判権からの免除を放棄することが出来る。
- 2 放棄は、常に明示的に行なわなければならない。
- 3 外交官又は第三十七条の規定に基づいて裁判権からの免除を享有する者が訴えを提起した場合には、本訴に直接に関連する反訴について裁判権からの免除を援用することが出来ない。
- 4 民事訴訟又は行政訴訟に関する裁判権からの免除の放棄は、その判決の執行についての免除の放棄をも意味するものとみなしてはならない。判決の執行についての免

派遣国による免除の放棄

- (g) an action relating to any professional or commercial activity exercised by the diplomatic agent in the receiving State outside his official functions.
 2. A diplomatic agent is not obliged to give evidence as a witness.
 3. No recourse of execution may be taken in respect of a diplomatic agent acting in the cases coming under sub-paragraphs (a), (b) and (g) of paragraph 1 of this Article, and provided that the measures concerned can be taken without infringing the inviolability of his person or of his residence.
 4. The immunity of a diplomatic agent from the jurisdiction of the receiving State does not exempt him from the jurisdiction of the sending State.
- Article 32
1. The immunity from jurisdiction of diplomatic agents and of persons enjoying immunity under Article 31 may be waived by the sending State.
 2. Waiver must always be express.
 3. The initiation of proceedings by a diplomatic agent or by a person enjoying immunity from jurisdiction under Article 31 shall preclude him from invoking immunity from jurisdiction in respect of any counter-claim directly connected with the principal claim.
 4. Waiver of immunity from jurisdiction in respect of civil or administrative proceedings shall not be held to imply waiver of immunity in respect of the execution of the judgement, for which a separate waiver shall be necessary.

除の放棄のためには、別にその放棄をすることを必要とする。

第三十二条

- 1 外交官は、3の規定に従うことを条件として、派遣国のために提供された任務について、接受国で施行されている社会保障規程の適用を免除される。
- 2 1に規定する免除は、また、次のことを条件として、もつばら外交官に雇用されている個人的使用人にも適用される。
 - (a) その使用人が、接受国の国民でないこと、又は接受国内に通常居住していないこと。
 - (b) その使用人が派遣国又は第三国で施行されている社会保障規程の適用を受けていること。
- 3 2に規定する免除が適用されない者を雇用している外交官は、接受国の社会保障規程が雇用者に課する義務に従わなければならない。
- 4 1及び2に規定する免除は、接受国における社会保障制度への自発的な参加を妨げるものではない。ただし、その参加には、接受国の許可を必要とする。
- 5 この条の規定は、社会保障に関する二国間又は多数国間の協定すでに締結されたものに影響を及ぼすものではなく、また、将来におけるこのような協定の締結を妨げるものではない。

外交関係ウィーン条約及び紛争の義務的解決選択議定書

Article 32

1. Subject to the provisions of paragraph 3 of this Article, a diplomatic agent shall with respect to services rendered for the sending State be exempt from social security provisions which may be in force in the receiving State.
2. The exemption provided for in paragraph 1 of this Article shall also apply to private servants who are in the sole employ of a diplomatic agent, on condition:
 - (a) that they are not nationals of or permanently resident in the receiving State; and
 - (b) that they are covered by the social security provisions which may be in force in the sending State or a third State.
3. A diplomatic agent who employs persons to whom the exemption provided for in paragraph 2 of this Article does not apply shall observe the obligations which the social security provisions of the receiving State impose upon employers.
4. The exemption provided for in paragraphs 1 and 2 of this Article shall not preclude voluntary participation in the social security system of the receiving State provided that such participation is permitted by that State.
5. The provisions of this Article shall not affect bilateral or multilateral agreements concerning social security concluded previously and shall not prevent the conclusion of such agreements in the future.

第三十四条

外交官は、次のものを除くほか、人、動産又は不動産に
関し、国又は地方公共団体のすべての賦課金及び租税を免
除される。

- (a) 商品又は役務の価格に通常含まれるような間接税
- (b) 接受国の領域内にある個人の不動産に対する賦課金及び租税（その外交官が使節団の目的のため派遣国に代わつて保有する不動産に対する賦課金及び租税を含まない。）
- (c) 第三十九条 4 の規定に従うことを条件として、接受国によつて課される遺産税又は相続税
- (d) 接受国内に源泉がある個人的所得に対する賦課金及び租税並びに接受国内の商業上の企業への投資に対する資本税
- (e) 給付された特定の役務に対する課徴金
- (f) 第二十三条の規定に従うことを条件として、登録税、裁判所手数料若しくは記録手数料、担保税又は印紙税であつて、不動産に関するもの

第三十五条

接受国は、外交官に対し、すべての人的役務、種類のい
かんを問わないすべての公的役務並びに徴発、軍事上の金
銭的負担及び宿舍割当てに関する義務のような軍事上の義
務を免除する。

役務及び
軍事上の
義務の免
除

A diplomatic agent shall be exempt from all dues and taxes, personal or real, national, regional or municipal, except:

- (a) Indirect taxes of a kind which are normally incorporated in the price of goods or services;
- (b) dues and taxes on private immovable property situated in the territory of the receiving State, unless he holds it on behalf of the sending State for the purposes of the mission;
- (c) estate, succession or inheritance duties levied by the receiving State, subject to the provisions of paragraph 4 of Article 39;
- (d) dues and taxes on private income having its source in the receiving State and capital taxes on investments made in commercial undertakings in the receiving State;
- (e) charges levied for specific services rendered;
- (f) registration, court or record fees, mortgage dues and stamp duty, with respect to immovable property, subject to the provisions of Article 23.

Article 24

The receiving State shall exempt diplomatic agents from all personal services, from all public service of any kind whatsoever, and from military obligations such as those connected with requisitioning, military contributions and billeting.

Article 25